

氏名	金 銀実		
学位の種類	博士（学術）		
学位記番号	博文化甲第20号		
学位授与年月日	平成26年9月19日		
学位授与の要件	学位規則第3条第3項該当		
学位論文題目	中国朝鮮族の国際移動と意識変容——韓国の移動者を中心に——		
論文審査委員	委員長	教授	市橋 秀夫
	委員	准教授	中村 大介
	委員	教授	山崎 敬一
	委員	教授	武井 和人
	委員	神戸大学大学院准教授	中川 聡史

### 論文の内容の要旨

金銀実氏の論文は、中国に在住する中国朝鮮族（以下、朝鮮族）を対象に、その国際移動の歴史と現状を明らかにしつつ、それに伴う意識変容を、独自の社会学的類型抽出の作業をとおして分析を試みた研究である。本研究の中心をなすのは朝鮮族の国際移動の現状に対する調査と分析であるが、それを行うにあたって学位申請者は、朝鮮族の中国における主な出身地である吉林省の延辺朝鮮族自治州（以下、延辺）とその主たる移動先である韓国ソウルの両方に着目し、それぞれの地域に在住する国際移動経験者及び未経験者としての朝鮮族に対してライフ・ストーリーの聞き取り調査を実施した。学位申請者は、2010年と2013年に延辺と韓国ソウルに延べ7か月以上滞在し、計125人に対する聞き取り調査を行っている。

本論文は全8章で構成されている。第1章では、研究課題を提示し、関連する先行研究の整理が行なわれ、研究方法について述べられている。中・韓・日3カ国の先行研究の整理を行った学位申請者は、先行研究においては、国境を超えて移動する朝鮮族の生活実態とアイデンティティの実態に迫ろうとする考察が次第になされるようになってきている点を評価しながらも、個々人のライフ・ストーリーの聴取という方法でもって生活実態やアイデンティティの解明にアプローチした研究はなお少ないと指摘している。移動先での朝鮮族はなお社会的弱者・被害者という側面から論じられがちで、生活実態や意識の多様性を把握することに成功していない研究が多い点に研究課題があることも指摘されている。

第2章と第3章では、朝鮮族の国際移動を取り巻く歴史的背景についての検討がなされている。第2章では、東西冷戦終焉後の国際政治の変容とグローバ

ル化の進行という動向の中で、中国、韓国それぞれの社会状況や移民法制がどのように変化したのか、そして、それらの変化が中韓のあいだの国際移動全般にどのような構造的影響をもたらしたのかについて、特に1992年の中韓国交樹立や2007年の訪問就業制度の導入などに注目した検討がなされている。第3章では、延辺の朝鮮族の歴史について、中国移住が始まった19世紀半ばにまで遡った検討がなされている。朝鮮族差別は少ないものの、経済成長が進まないために朝鮮族の人口流出に歯止めがかからない状況もたらされている点が指摘されている。

第4章から第7章までは、聞き取り調査の結果がまとめられ、その生活実態ならびに意識の分析が行われている。

第4章では、延辺地域における朝鮮族の生活実態を検証し、韓国への出稼ぎが延辺で暮らしている朝鮮族にいかなる影響を与えているのかが分析されている。韓国への出稼ぎを希望していない人たち、韓国での出稼ぎから帰ってきた人たちも含めた調査を行い、韓国への出稼ぎを希望していた朝鮮族を8つの類型にまとめている。そこから、これまでの先行研究では指摘されていない意識変容が2000年以降の朝鮮族国際移動者の間に現れていることが明らかにされている。

第5章では、先行研究ではほとんど注目されていない、延辺朝鮮族と北朝鮮とのあいだの国際移動についての検討がなされている。かつて延辺にとって重要な出稼ぎ先でもあった北朝鮮が、中国の改革開放政策実施と中韓国交樹立によって存在感を著しく低下させてきた点が指摘されているが、なお、北朝鮮との絆の重要性が残っていることも聞き取り調査から明らかにされている。

第6章では在韓朝鮮族の生活実態を、また第7章ではそれらに在韓朝鮮族の民族意識を分析し、7つの類型抽出を行い、これまでの先行研究で強調されてきた「弱者」や「被抑圧者」という視点だけでは捉えきれない朝鮮族の新しい動向を浮き彫りにしている。

終章にあたる第8章では、各章において導き出された興味深い結論を整理するとともに、移動を起動する要因としての経済格差の変わらぬ重要性に改めて強調しつつも、国際労働力移動における構造的アプローチを用いて説明することの多いこれまでの先行研究の不十分さを指摘し、個々のライフ・ヒストリーにもとづいて形成されてきた移住者の記憶と意思が国際移動において果たす役割の重要性を主張して終えている。

以下、論文の構成を示す目次を記す。

## 【目次】

### 第1章 序論

#### 第1節 研究課題

##### 第2節 切り口の選定理由

##### 第3節 先行研究

第1項 中国における先行研究

第2項 韓国における先行研究

第3項 日本における先行研究

第4項 国際労働移動に関する先行研究

##### 第4節 研究方法

##### 第5節 構成

### 第2章 転換期における現代社会

#### 第1節 現代社会の変動と人口移動

#### 第2節 中国改革開放と市場経済の導入

第1項 地域間格差——発展から取り残された中国東北地方

第2項 国有企業改革による失業者の増大

第3項 都市・農村間格差の未解消

第4項 教育事情の変化と就職難

#### 第3節 朝鮮族の移動先としての韓国

第1項 韓国経済の経緯と朝鮮族

第2項 韓国政府の対朝鮮族政策の変遷

第3項 在韓朝鮮族を支えるコミュニティ

### 第3章 朝鮮族の概況と延辺の新たな動き

#### 第1節 朝鮮族の誕生

#### 第2節 移民の歴史と近代の移動

第1項 朝鮮農民の小規模移動

第2項 朝鮮人の本格的な移動

第3項 中国朝鮮族としての移動

第4項 韓国への入国規制緩和と中国で拡大する社会格差

第5項 21世紀以降の延辺朝鮮族と韓国出稼ぎとの関係変化

第4項 中韓修交前後の移動

#### 第3節 延辺朝鮮族社会の特徴

#### 第4節 中国図們江開発の立案から新展開

第1項 図們江開発計画の立案

第2項 交差する議論と計画の挫折

第3項 緩やかな継続期

第4項 大図們江開発へ

第5項 東北振興政策と吉林省

第6項 長吉図綱領の要旨

第7項 延龍図一体化計画

#### 第5節 延辺の行方

### 第4章 延辺地域における朝鮮族の生活実態

#### 第1節 先行研究と分類枠組み

#### 第2節 分類枠組みからみる諸事例

#### 第3節 事例紹介

第1項 成功中国定住希望型

第2項 被差別経験中国定住希望型

第3項 人間関係不適応再訪韓希望型

第4項 生活苦・再挑戦型

第5項 コリアンドリーム熱望型

第6項 やむなく訪韓型

第7項 中国に満足定住希望型

第8項 嫌韓・出稼ぎ忌避型

#### 第4節 まとめ

第1項 出稼ぎでも解決されない貧困

第2項 延辺エリート層の待遇向上と出稼ぎという選択肢の消滅

第3項 家族交流だけでなく生活態度改善のため訪韓

### 第5章 北朝鮮と延辺の交流と民族意識

#### 第1節 概要

第2節 延辺と北朝鮮国境地域との交流の多様化

第1項 建国後の経済関係

- 第2項 国境貿易と移動の多様化
- 第3節 国境に跨る辺鄙な村—古城里村
- 第4節 脱北者と朝鮮族の関係
- 第5節 北朝鮮とのネットワーク形成と朝鮮族の民族意識
- 第6節 まとめ

- 第2節 事例紹介
  - 第1項 韓国に来て中国社会の良さが分かった
  - 第2項 掛け橋になりたい
  - 第3項 国と民族に拘らない
  - 第4項 韓国社会で暮らしたい
- 第3節 まとめ

## 第6章 韓国における朝鮮族の生活実態

- 第1節 概要
- 第2節 韓国の中国朝鮮族労働者受け入れ政策の変化
  - 第1項 離散家族探しによる朝鮮族訪問団の初の韓国入国
  - 第2項 産業技術研修制度の導入
  - 第3項 外国人雇用許可制
  - 第4項 在外同胞訪問就業制
- 第3節 ソウルにおける朝鮮族タウンの展開
- 第4節 在韓朝鮮族の生活実態
  - 第1項 研究方法
  - 第2項 在韓朝鮮族の生活をめぐる先行研究と分類枠組み
- 第5節 事例紹介
  - 第1項 中国発展期待・帰国希望型
  - 第2項 目的達成帰国希望型
  - 第3項 被差別経験帰国希望型
  - 第4項 韓国社会不適應・帰国希望型
  - 第5項 再移住希望型
  - 第6項 中国生活不適應・韓国定住希望型
  - 第7項 在韓生活基盤形成・韓国型定住希望型
- 第6節 まとめ

- 第8章 終章
- 謝辞
- 参考文献

## 第7章 在韓朝鮮族のアイデンティティ

- 第1節 概要

## 論文審査の結果の要旨

学位論文審査会は、当該論文の発表会を2014年7月29日に公開で開催し、申請者による発表をふまえ、質疑を行って論文内容を審査した。

本論文における特徴的な研究上の方法、結論付けられた新たな知見・見解、また研究現況に与えるであろうインパクトなどを挙げる。

1) 本論文の最も重要な功績のひとつとしては、広範なライフ・ストーリーの聞き取り調査が行われ、国際移動要因に関する数多くの新しいファクト・ファインディングがなされている点が挙げられよう。本論文では移動者や留守家族個々人の具体的な生活実態や意識といったような、各種の葛藤をも含んだ内面の把握が目指されている。また、韓国での調査では朝鮮族の不法滞在者に対する聞き取りも行われている。聞き取り調査の主な使用言語は朝鮮語であるが、125にのぼる事例の記録を起し、それを日本語に訳してまとめ、分析した労力は貴重もある。それらをもとに、これまでの先行研究では深く検討されることが多かったとは言えない、個々のライフ・ヒストリーにもとづいて形成されてきた移住者の記憶と意思の国際移動において果たす役割の重要性を明らかにした点は、高く評価されるべきであろう。

2) 本論文の特徴としてさらに挙げるべきは、これまでの先行研究では指摘されることのなかった国際移動者の類型の抽出を行い、国際労働力移動の新段階ともいべき現状を明らかにするべく努めている点である。たとえば、延辺における調査では、韓国への出稼ぎを希望していない人たち、韓国での出稼ぎから帰ってきた人たちも含めた調査を行い、総計で8つの類型を抽出している。韓国への出稼ぎを希望していた朝鮮族としての「人間関係不適応・再訪韓希望型」、「生活苦・再挑戦型」、「コリアンドリーム熱望型」、「やむなく訪韓型」の4類型と、希望していない朝鮮族としての「成功・中国定住希望型」、「被差別経験・中国定住希望型」、「中国に満足・定住希望型」、「嫌韓・出稼ぎ忌避型」の4類型である。これらは、移動の動機のあり方をより詳細に描き出すことに成功したものといえ、グローバル化の亢進する21世紀の東アジアにおける国際労働力移動の複雑化した新たな段階を示すものとして重要であると思われる。

3) もうひとつ指摘しておきたい本論文の特徴は、現状分析に終始するのではなく、個々人の歴史的な背景の中で国際移動を位置付けようとしている点である。申請者はライフ・ストーリーの聞き取り調査という手法を採用しているが、

その独自性は、語り（ストーリー）の重視という点にあるのではなく、個人史の過去の体験（＝ライフ・ヒストリー）を重視する点にみられるといえよう。そして、個々人の人生において繰り返される移住経験の堆積が次の移住経験を形作る重要な要因であることを明らかにすることに成功している。また、それら個人史を、民族や国家の歴史という、より広い歴史の流れの中に位置づけて分析を行っている。上記のきめ細かい類型抽出は、こうした幾重にも重なる歴史的な把握・理解のなかで初めて可能になったものといえよう。

本論文の研究上の特徴や、分析によってもたらされた知見の重要性は疑うべくもないが、審査委員から指摘されていくつかの課題を、以下 2 点に集約して述べる。

1) 本論文では、日本語、韓国語、中国語で発表された先行研究について広範囲な整理がなされており、著名な国際労働力移動研究で出されてきた論点整理もなされている。しかし、なおその渉猟範囲は不十分ではないかという指摘がなされた。21 世紀に入ってからグローバル化の進行とともに、世界の諸地域ではさまざまな新しい質を伴った国際労働力移動が現象しており、それらに関する研究文献は膨大にあると思われる。朝鮮族プロパーの先行研究では指摘されていない新たな論点や知見が、英語文献を含めすでにさまざまな形で表明されていると推測するのが妥当であろう。それら最新の研究成果との関連で本論文が位置づけられていないという問題がある。

2) 本論文は、社会学的なアプローチをとった研究であるが、本研究の発掘した新しい諸事実を分析していくにあたって、本論文で用いられた類型分析という手法が最適なものであったのかどうかという疑問が出された。それは、別言すれば、ライフ・ストーリーという研究方法の可能性と限界についての申請者なりの独自の考察が不十分ではないかということでもであろう。「語り」の分析手法のさらなる検討が、望まれる。

本論文には、これら問題点があることも事実であるが、総体としてみれば、当該研究領域において、一定水準以上のインパクトを与える業績であると確認されることは間違いないと思われる。

以上のことから、本委員会は、本論文が学位論文の要件を満たしており、博士（学術）の学位を授与するのにふさわしいものと判定した。

以上